

会 議 録 (要録)

会議の名称	市民参加推進会議（第48回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成29年5月25日(木)午後7時00分～午後9時08分		
開催場所	前原暫定集会施設 B会議室		
出席者	委員長 西尾 隆 委員 副委員長 渡邊 大輔 委員 委員 一山 稔之 委員 大久保 勝盛 委員 三輪 茉莉香 委員 山下 光太郎 委員 五島 宏 委員 中村 彰宏 委員 中谷 行男 委員		
欠席者	原 久子 委員 佐久間 博子 委員 天野 建司 委員		
事務局	企画政策課長 三浦 真 企画政策課係長 古賀 誠 企画政策課主事 齋藤 彬子		
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 一部不可 <input type="radio"/> 不可		
傍聴者数	0人		
【会議次第】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 市民参加の状況について ア 平成29年度市民参加条例対象附属機関等設置状況(平成29年4月1日現在) イ 平成28年度パブリックコメントの実施状況 ウ 平成28年度意向調査実施状況 エ 平成28年度審議会等の公募結果 3 今後の市民参加推進会議の予定について 4 提言(案)の検討について			
【会議結果】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 市民参加の状況について ア～エまでに状況について資料1～4に基づき、事務局が説明を行った。 【主な意見】 ○ 4月1日現在の附属機関等委員数は、663名との報告があった。重複して就任している委員数は何名か → 本日は、手元に資料が無く、次回以降に報告したい。			(該当ページ) P1～2 P2～3 P4～5
【まとめ】 事務局からの報告が了承され、重複して委員に就任している人数については、次回、事務局より報告することとなった。			

<p>3 今後の市民参加推進の予定について 資料5に基づき、事務局が説明を行った。</p> <p>【主な意見】</p> <p>○ 次回以降の議題について聞きたい。 → 本日、次の議題として提言書の作成をお願いしている。 この提言を6月中に小金井市長に提出し、第49回委員会は、8月4日又は10日に開催予定。</p> <p>まとめ 開催予定については、欠席された委員の日程を考慮の上、別途通知することとなった。</p> <p>4 提言（案）の検討について 資料6に基づき、正副委員長が説明を行った。</p> <p>【主な意見】</p> <p>○ 委員の女性数が少ないように感じる。提言の中に関連する文言を加えてはどうか。</p> <p>○ ワークショップの開催に当たっては、関連するデータ・資料を、事前に公表するような手法が取り入れられないか。</p> <p>○ ファシリテーターに関する記述を盛り込んでどうか。</p> <p>○ ワークショップの実施に際しては、体験型要素を加えられないか。</p> <p>○ ワークショップに係る広報について、SNS、メルマガ、クチコミの活用なども提言の中に加えられないか。</p> <p>○ 「議論の成果」の部分について、主語を加えるなど文言の整理を行ってどうか。</p> <p>まとめ 本日の議論を参考に、提言書は正副委員長で取りまとめることとなった。</p>	<p>P5～P7</p> <p>P8～P26</p> <p>P8～P11</p> <p>P11～P15</p> <p>P16～P18 P18</p> <p>P18～P24</p> <p>P24～P26</p>
<p>【提出資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度市民参加条例対象附属機関等設置状況 2 パブリックコメント実施状況調査（平成28年度） 3 意向調査実施状況（平成28年度） 4 公募委員状況一覧（平成28年度） 5 今後の市民参加推進会議の予定 6 提言案 	

第48回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成29年5月25日（木）午後7時00分～午後9時08分

場 所 前原暫定集会施設 B会議室

出席委員 9人

委員長 西 尾 隆 委員

副委員長 渡 邊 大 輔 委員

委 員 一 山 稔 之 委員 大久保 勝 盛 委員

三 輪 茉莉香 委員 五 島 宏 委員

中 村 彰 宏 委員 山 下 光太郎 委員

中 谷 行 男 委員

欠席委員 原 久 子 委員 佐久間 博 子 委員

天 野 建 司 委員

事務局職員

企画政策課長 三 浦 真

企画政策課係長 古 賀 誠

企画政策課主事 齋 藤 彬 子

傍 聴 者 0人

（午後7時00分開会）

◎西尾委員長 第48回市民参加推進会議を始めたいと思います。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

出欠は、天野委員から欠席の連絡をいただいております。あと2人、いらっしゃると思いますので、議事を始めたいと思います。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条で、半数をもって成立するということですので、本会議は成立していることをご報告申し上げます。

今回も切りのいいところで5分程度の休みを入れていきたいと思います。会議の進行に際して、会議録を作成する都合上、事務局、苦勞されるということがありましたので、私も大体言い忘れてることが多いんですけども、発言の前に、誰からですというふうにお名前を言っていただければ助かります。

では、配付資料につきまして、事務局のほうから確認をしていただきます。

◎事務局 改めまして、皆さん、こんばんは。本日はよろしくお願いたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。本日の資料につきましては、事前に送付をさせていただいたものもございますけれども、全て机上に配付をさせていただいております。

本日はこちらをベースにご議論いただきたいと思います。と思っています。

それでは、まず資料の1でございます。平成29年度市民参加条例対象附属機関等設置状況につきましては、A3両面の印刷でホチキス留めの2枚の資料でございます。資料2、パブリックコメント実施状況調査、資料3、意向調査実施状況（平成28年度）、資料4、公募委員状況一覧（平成28年度）、資料5、今後の市民参加推進会議の予定については、それぞれA4、各1枚の資料です。

最後に、資料6、提言案につきましては、ホチキス留めされた資料でございます。前回会議でいただいたご意見並びに委員長の校正を含めたものということで本日配付をさせていただいております。

机上に置かせていただきましたけれども、何か配付漏れ等ございましたら、ご一報いただければ対応させていただきます。

以上でございます。委員長、よろしくお願いいたします。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。資料のほうはよろしいでしょうか。

それでは、次第に従いまして、2の市民参加の状況について入りたいと思います。これについて、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、説明いたします。資料1、平成29年度市民参加条例対象附属機関等設置状況をご覧ください。市民参加条例対象附属機関等一覧表は、平成29年4月1日現在の附属機関等について、附属機関等の名称、担当している課、根拠になる条例等、定員数、年代別委員数、任期数別委員数、委員の公募状況が載っています。附属機関の総数につきましては、この表にありますように、56機関で、昨年より4機関増えております。以前ご説明したとおり、法律あるいは条例によるものを附属機関、要綱等によるものを附属機関等の「等」の部分に当たるものとしていますが、法律あるいは条例による附属機関等が45機関、要綱等によるものが11機関ございました。そして、4月1日現在委員になっている方の総数は、資料1の3ページ、一番下の段にありますとおり、663名です。男女については、男性が455人、女性が208人です。市民参加条例第9条第4項では、男女の偏りが無いよう配慮することになっておりますが、現在は男性委員の割合は69%、女性委員の割合が31%となっており、昨年より若干男性委員の割合が高くなっております。その他、公募委員を置く機関は34機関です。昨年は32機関でしたので、2機関増えています。

続きまして、資料2、パブリックコメント実施状況調査についてですが、平成28年度に実施されたものは9件でした。検討結果につきましては、3件の案件で一部変更を行ったということです。

続きまして、資料3、意向調査実施状況調査をご覧ください。意向調査とは、市民参加条例第14条第1項（市は、市政に係る重要な施策又は課題について、市民の意向を知る必要があると認める場合は、市民の意向調査を実施するものとする。）に規定されているもので、市民へのアンケート調査のことです。平成28年度に実施されたものは、こちらの3件です。

最後に、資料4、公募委員状況一覧をご覧ください。全部で17の附属機関等において公募が行われ、87人の公募に対し131人の応募があり、1.50倍の倍率で、平成27年度は1.72倍でした。以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。事務局のご説明は、高橋さんが異動されて、今回から齋藤さんがやっただけになりました。私から言うのも変ですけども。という交代があったと伺っております。

今の説明につきまして、何かご質問等ございますか。663人の市民が、重複はあるんですけど、こういう形で参加されていると。それから、パブリックコメントが、ゼロという数字も一部にありますけれども、意見が届いている、一部は変更されています。また、パブリックコメントについては、右のページに、何が変更されたかというのが出ています。

◎西尾委員長 ご興味のある方は、それをご覧いただければと思いますが、なかなか時間がなくて見れないかもしれません。ご存じないですね、その中身のこと。

◎事務局 パブリックコメントでございますけれども、一般的には、いただいたご意見と、それに対して市がどのようにしたかというものを一覧表にして公表させていただいてございます。一部修正というところがパブリックコメントを受けて、若干、その文言等の修正を図った部分ということでご理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

◎西尾委員長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

◎大久保委員 1点、今委員長がおっしゃったとおり、663名のうち重複で入っている方がどのくらいいるかというのは、把握されているのでしょうか。

◎事務局 事務局でございます。ただいまの大久保委員からのご質問は、2つ以上の附属機関に入っていられる方が何人いるかというご質問でよろしいですか。

◎大久保委員 はい。

◎事務局 すみません、ちょっとこの表からは読み取れないのと、現在、データを持ってございません。大変恐縮でございますけれども、調べるのに時間がかかりますので、次回以降にさせていただきたいと思っております。ただ、市民参加条例上は、第12条のところ公募委員の規定というのがございまして、小金井市の場合、附属機関、常設のものが2つまでオーケーです。プラス時限的なものが1つということで、都合3つまではオーケーという規定にしてございます。

以上です。

◎西尾委員長 ありがとうございます。意外といろいろな会議に出て、いつも一緒ですねというようなことが以前よくありましたね。どこ行っても同じような顔ですね。無作為抽出をやるきっかけになったのも、そういう実態があったというようなことも聞いたことがありますね。またそういうデータがあれば教えていただければというふうに思います。

続いて、今後の市民参加推進会議の予定についてのご説明をしていただけますか。

◎事務局 それでは、ただいま次第2番の(1)、市民参加の状況について、ア、イ、ウ、エまで資料のほうでご確認いただいたということで、今度、次第でまいりますと議題の3、今後の市民参加推進会議の予定について、これにつきましてご協議をお願いいたします。

恐れ入ります。今後の市民参加推進会議の予定をお手元にご用意ください。それでは、ご説明申し上げます。資料5をご覧ください。第6期市民参加推進会議は、今回を含めて残り2回となります。今回、第48回では、この後、提言書の確認をお願いいたします。最終調整の後、6月下旬に市長への提言の受け渡し及び懇談の機会を設けます。市長日程を調整しまして、候補日は6月29日木曜日の15時から17時のうち1時間、6月30日金曜日の16時15分から17時15分のいずれかを予定しています。この日は報酬をお支払いすることはできませんが、正副委員長及び参加できる委員の方にご同席をお願いしたいと考えています。市長への提言の後、第49回は提言書を受けての市長意見の交付を予定しています。

検討事項として、1つ目に、本日の会議終了後の提言案の最終調整については正副委員長に一任とすること、2つ目に、提言書の受け渡しの日程調整、3つ目に、最終回、第49回の開催日の日程調整となります。

資料の説明については、以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。ということで、確定ではないんですけども、私たちの予定と、一番大事な市長の予定で、そういう予定になっております。いかがですか、皆さん、そのときは、29日か30日ということですけども、可能ならぜひいらしていただきたいというふうに思います。49回は、これはここで決めればいいんですね。

◎事務局 そうです。

◎西尾委員長 今決めちゃいますけれども、49回、最終回ですけども、このときは提言書を受けて、市長意見というものが届けられて、それについて意見を述べ、そして次の第7期に対して申し送り事項のようなものがあれば、そのことを幾つかまとめるということになるだろうと思います。

◎一山委員 委員長、よろしいですか。

◎西尾委員長 はい。

◎一山委員 49回目の日程は、今日2人も欠席なさっているんで、もうちょっとお時間を待っていただいて、候補日をもしどうしても決めなくちゃいけないのであれば、時間も含めて、両方とも残していただいて、あと2人の委員のご意向も、最終回ですので、できれば全員でと。

以上でございます。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。これは後ろに回して、今日中にもし固まれば、またご相談したいと思います。

◎一山委員 大事な天野委員が、3名欠席で……。

◎西尾委員長 時期は、比較的、お盆に近いぐらいですかね。

◎事務局 日程の関係から入ってしまいまして、大変申し訳ございません。まず第49回、8

月4日、8月10日のいずれかというところで、今、一山委員からご提案がありましたとおり、皆様がお越しになった後にお決めいただければ結構でございます。この日につきましては、現状、市長日程を仮抑えしてございます。

同じく、提言書の受け渡し、6月29日と30日、この部分につきましても、今、市長日程のほうを仮抑えをしてございますので、皆さん、日時を決定していただければ、この日も市長日程はとれているというところでございます。

以上でございます。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。では、きょうの本題ですけれども、4番目の提言（案）の検討についてご意見をいただいて、今日は決めていただきたいというふうに思います。事務局のほうからご説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、次第4、提言（案）の検討に進みます。資料6は前回会議で皆さんよりいただいたご意見を反映し、西尾委員長のほうでその後校正を加えたものになっております。本日、この提言案に最後のご意見を伺いまして、正副委員長で最終調整の後、市長に提言を行いたいと考えています。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。ページ数もそう多くありませんから、1つ、上から進めていってよろしいですか。全体の構成とかは前回もこれは議論しましたので、「はじめに」、それから「これまでの経緯」、「提言」、最後に「おわりに」という、こういう構成になっております。

細かいことを言うと、「はじめに」はゴシックですね。最後のフォーマットですけれども。どこでもご発言いただいて結構なんですけど、上からやっていきたいと思えます。タイトルは「市民参加をより一層推進するための取組について」、若者の言葉が入ってないんですけども、これは中身のところを読むと出てきますので、今回は特にその言葉は入れませんでした。これについては、どうでしょうか。

ご参考までに、前回の、2年前ですね。この会議で提案したのは、若者の市政への参加を推進するために具体的な方策についてというところから出ておりましたけど、今回、内容に入っていきますけれども、こういうタイトルでいきたいというふうに思います。

「はじめに」のところを読みたいと思えます。小金井市市民参加推進会議（以下「第6期推進会議」という。）では、平成27年12月から平成29年5月まで7回の会合をもった。この間の議論を通じ、小金井市政（以下「市政」という。）における市民参加をより一層推進するため、以下のとおりワークショップ（参加型の学習と議論の場）の実施及びフィードバック（議論の成果の反映）を提案することとした。小金井市（以下「市」という。）においては、本提案を基礎としてワークショップの実施に向けた検討を進め、早期に実現可能な方策を立案されたい。

ここの「はじめに」のところはいかがでしょうか。

◎一山委員 委員長、よろしいですか。

◎西尾委員長 どうぞ。

◎一山委員 大変細かいので申し訳ですが、1行目の括弧が2個ある、これはどういう意味があるのでしょうか。「では」の前に括弧が2個あります。

◎事務局 事務局でございます。誤植でございます。申し訳ありません。

◎一山委員 それから、最後に「早期に実現可能な方策を立案されたい」というふうに書かれているところを「企画立案」という形はいかがでしょうか。

◎西尾委員長 企画、中黒はいいですか、そのまま。中黒入れますか。

◎一山委員 それは、市の書き方というのが何かあるのかなと思ひまして。あとは、企画・立案のほうがよろしいのか、企画立案……。

◎事務局 中黒を入れる、入れないというところなんです、普通は入れないかなと思うんですけども、推進会議からの提言でございますので、お任せをしたいというふうに思います。

◎西尾委員長 では、続けますかね、企画立案と。というと、「実施されたい」という気持ちも湧いてきます。実は、前は、これは「はじめに」じゃなくて「提言」のところに、一、二年以内にか、そういう言葉を入れているんですね。時期をどうするか、私も今回はどうかなというふうに思ったんですが、早期にということなので、早期では1年ぐらいですかね、考え方としては。どうぞ。

◎五島委員 どう書くかはありますが、気持ちとしては、定期的にやってほしいなど。

◎西尾委員長 提言の中にどっか入るところがあればどうかということもあるかもしれませんが、ちょっとメモとして、定期的にですね。早期の実施に向けてとかという言葉はいらないですか。とりあえずここは、今、一山委員から言われた「方策を企画立案されたい」という、その言葉を入れておきたいと思います。また最後までいって、加筆が必要ならば議論したいと思います。

◎山下委員 すみません、いいですか。

◎西尾委員長 はい、どうぞ。

◎山下委員 「はじめに」の部分で、前提条件となる文章だと私は思うんですが、これまでの経緯と提言のところで、若者って明記されているにもかかわらず、前提条件に若者という言葉が入っていないのは、この後にどういうことをしていきますよという表現が明確になっていないと思ったので、「市民参加をより一層推進するため」の前に、ここに若者のとか入れてしまうのはどうなのかなと思いました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。入れるとすると、若者という言葉を入れるということでございますかね。

◎山下委員 はい。

◎渡邊副委員長 よろしいでしょうか。

◎西尾委員長 はい。

◎渡邊副委員長 2の提言のところも、第1段落のところ、**「若者の参加拡大を念頭に置き**

つつも、より広範な市民参加を促すべく」となっているので、「はじめに」で限定してしまうと、むしろその部分と齟齬が出てしまうところがあって。もともときっかけとしては、若者をという議論からスタートしたのですが、もちろん若者もぜひ入ってほしいと思いつつ、より質の高い市民参加を考えていくということだったので、おそらく「はじめに」のところは、全体のことで、今回は入れないほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

◎西尾委員長 2のところの冒頭ですね。これも改めて、なくてもいいか、表現を工夫して入れるかということがあり得るかと思しますので、またこっちに戻りたいと思います。

1番のほうに進みたいと思います。

1、これまでの経緯。小金井市市民参加条例（平成15年条例第27号）第1条には、小金井市民（以下「市民」という。）の市政への参加と協働がうたわれている。市では、これまで附属機関等への市民参加を推進するため、公募による市民参加の手法を整備するとともに、無作為抽出の活用など、市民が市政へ参加する機会を拡充してきた。しかし、附属機関等への参加は、現状においては高齢者層が中心であり、参加する市民の年齢層に偏りが見られる。そこで、第5期推進会議では、「若者の市民参加」に焦点を当て、その具体的な手法としてワークショップや若者討議会の実施、市の会議体への若者分科会の設置が提言された。第6期推進会議ではその議論を踏まえ、以下の提言を行う。というのが、これまでのものです。これはいかがでしょうか。

◎一山委員 委員長、よろしいでしょうか。

◎西尾委員長 はい、どうぞ。

◎一山委員 第2段落のところの「参加する市民の年齢層に偏りが」というところを、今日資料1で男女間の偏りがかなり、455対208とありましたので、ここに性別にというのを、例えば参加する市民の年齢層や性別に偏りが見られるということを入れても、市のほうでは困らないんじゃないでしょうか。そこは市にお任せをします。

◎西尾委員長 1対2。でも、例えば国の幹部の数というと、まだ4%ですね、課長以上が。相当改善はしたんだなというふうに思いますが、でも、1対2ですから、これは市の側としては、年齢層や性別と入れることはどうでしょうか。

◎一山委員 1票の格差の2倍以下ならオーケーということがありますので、書かないほうがよろしければ、それはもう……。せっかくデータも、今日わざわざご説明までいただいたので。

◎西尾委員長 書く、書かないの前に、なぜ男性が多いんですかね。

◎渡邊副委員長 おそらく男性が多い理由は、普通に考えて、公募委員だけではないので。例えば幾つかのところを見ると見えてくるんですが、例えば女性が多いところでは、在宅介護支援のところ、ここは女性が多いんですが、労働者も基本的には女性が多い。逆に、似たような形で介護保険の認定審査会とかを見ると、比較的女性が多いんですけど、介護保険の認定審査会は、医師とケアマネが両方やるので、どうしても医師は男性が多い形で、ある程度、コントロール可能な部分と、そもそもコントロールが難しいものがあるので、理念としては、基本

的に男女同数にするというのが望ましいんですが、なかなか現状として、そもそも規定の、学識経験であるとか、あるいは経験したことが、残念ながら、そののところではそうではない。あるいは医師会推薦の方々も大体男性なので、どうしてもそうならざるを得ないというところが、この違いになっているのかなと。そういうふうを読むと、比較的、3対2というのは、大分増えてきているなというところと言えるのかなというふうには思います。少ないのは少ないので、書くことには全然やぶさかではないと思います。

◎一山委員 委員長、よろしいですか。

◎西尾委員長 どうぞ。

◎一山委員 委員長がお詳しい、三鷹市でも同じような比率なんでしょうか。

◎西尾委員長 どうですかね。

◎一山委員 ほかの市で同じような感じであれば、特に言及しなくてもいいかなと。

◎西尾委員長 そもそも増えているのかどうなのか、改善しているのかどうなのか、ちょっと興味があるんですね。

◎渡邊副委員長 私のイメージは、傍聴者の方は、女性のほうが明らかに多いと。委員となると、トータルで見たらおそらく男性のほうが多いんですね。ほぼ男性しかいない委員会というのが必ず幾つか存在してしまうので、トータルで見たら男性のほうが多くなるのかなというふうには思います。

◎事務局 それでは、まず女性委員の比率でございます。冒頭、事務局のほうからご説明申し上げましたけれども、女性比率のほうについては微減している状況です。昨年度ベースだと、微減ということでご答弁申し上げます。

それから、加えて、市民参加条例の中の第9条というところがございまして、附属機関等の委員構成は、男女それぞれに偏りがないように配慮しなければならないという規定を設けてございます。事務局といたしましても、なるべく女性委員の方、女性の方に参加していただきたいということで考えているところですが、先ほどいみじくも渡邊委員がおっしゃられたとおりの状況がございまして、なかなか思うようにいっていないというところが実情でございます。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。この手引きの説明があるんですけども、条例で男女の比率を一律に規定するのは困難なことから、男女の割合については偏りがないように配慮しなければならないにとどめているというのは、常識的に、あまり偏りがないということを規定しているという形ですね。どれくらいだと偏りなるかとか、そんなことは……。

◎五島委員 今ちょっと思ったんですけど、ちょっと話がずれちゃうかもしれないんですけど、彼女が、何で女の人が少ないんだろうと……。

◎三輪委員 全然わかっていないんですけど、市の方が充て職という形で参加されている問題があるのかなと思っています。そういうことで男性の方が増えているのか……。

◎西尾委員長 始まったときは、1人は女性でいらしたんですけどね、市の方はね。でも、少ないと思いますね、一般的に。データをちょっと見たことがありますけど。どのくらいかな、

まだまだ自治体でも2、3割ですかね、課長職というのは。

◎三輪委員 私も仕事柄、8市町村の会議を回ったんですけれども、全て男性でした。女性の方は1人もいらっしゃらなかったです。

◎五島委員 それは、8市町村って、どの辺の、東京の。

◎三輪委員 西のほうの自治体です。

◎西尾委員長 私は大学、学長が女性、市長が女性、都知事が女性。総理大臣になれば、全てトップの方になるかもしれないですけど。

◎一山委員 委員長、素朴な質問でもいいですか。

◎西尾委員長 はい。

◎一山委員 ご説明があったかもしれませんが、今日配付していただいた資料1の附属機関等設置状況というのは、これはどこかに市として公表されているやつでしょうか。内部資料ですか。

◎西尾委員長 これは、こういう会議に出れば、それがインターネットに資料として出ますから、そういう意味では公開でしょうね。どれだけそれにアクセスするかの問題は別なんですけどね。

◎一山委員 公表されているのであれば、455対208というのは、2.25倍ぐらいの差がありますので、提言のところにもし入れて市が困らないのであれば、性別の改善も。例えば、これに注をつけるというふうなこともあり得ますか。

◎西尾委員長 ここに高齢者が中心であり、参加する市民の年齢層や性別に偏りが見られるとして、注をつけて、後ろのほうにデータをつける。ちょっとここに書くと、うるさい感じはするかなと思うんですけれども。

◎一山委員 近隣の武蔵野市とか、三鷹市とか、国分寺市とか、国立市で同じような附属機関に、どういう男女比になっているか。それが、あまり小金井市が突出していなければ、特にお書きにならなくてもいいのではないかな。

◎事務局 今、一山委員からご質問いただきました。こちらの資料につきましては、本日以降、ホームページで公開をいたしますので、そういう意味では、公開の情報ということで整理させていただきます。

それから、他市の状況ということで、各市が、例えば附属機関を同じように持っているかは限らないわけです。各市によって条例設置の委員会は何個あるとか、要綱設置の委員会は何個あるかということで、男女別の情報がどこまでとれるかというのは、正直、難しいかな、と思っております。

以上でございます。

◎西尾委員長 入れるか入れないかなんですけれども、入れて注をつけるかどうかの問題もありますが、問題提起として、皆さん、いかがですか。もうちょっと多くてもいいという気持ちはありますか。

◎渡邊副委員長 今、ぱぱっとなんですけど、よくよく見たら、公募状況の項があるんですね。公募されない話をしましたが、実は、今、一生懸命足し算してみたので、間違っている可能性は十分あるとご承知いただいた上で、公募状況の合格者だけですと、男性が90人で女性が63人になっています。なので、やっぱり同じような、ほぼほぼ3対2ぐらいで。例えば都市計画とかは男性しかいなくて、職員課は女性しかいないように、多少テーマによって、関心がある方々が違うのは仕方ないと思うんです。ただ、そういうふうにと考えると、女性の公募者がもう少し、例えば公募者に関してはもうちょっと男女の偏りがありそうな気配もありますので、もう少し、女性の方々にもぜひ応募していただきたいというメッセージを込めるのであれば、このところに女性の年齢層、これはあくまでも公募委員の話なので、公募委員の年齢層にも偏りがあるということは構わないのかなと思います。

◎西尾委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか。私も入れていいんじゃないかなと。やっぱり明らかなものの偏りは、ひどくありません。条例に違反するほどではないけれども、偏りに配慮ということで、条例にもある考え方ですから、年齢層や性別にと入れてみたらどうでしょうか。いかがですか。

◎大久保委員 僕は議論を聞いていて、全然大丈夫だと思って黙っていたんですけど、特に問題は感じないです。

◎西尾委員長 女性活躍が日本全体の課題のように受け取れます。どの程度かというデータもつけていいんじゃないかなと思うんですけどね。注をつけるとすると、これはどこに入れるんですかね。そのすぐ下なのか、それとも一番下なのか。

◎一山委員 添付資料でお持ちしたらいかがでしょうか。資料もインターネットに公表されるし。

◎西尾委員長 これをですか。

◎一山委員 はい。

◎西尾委員長 どうですかね。

◎一山委員 脚注とかいうよりは、資料に全てありますので、これを見ていただくほうが一番。

◎西尾委員長 ではあるんですが、読み取らないといけないというところもありますよね、詳細な、資料の話。

◎一山委員 もし可能であれば、資料1-1の最後のページの455、208だけ黒い縁取りがされるとか、目立つようにするというふうな……。その辺は市側のご意向もごきますし、正副委員長に最後は一任と。

◎西尾委員長 スタイルがあると思いますので、これを読んで非常にベーシックな割合がわかるという程度もいいかなと思うんですが、それが資料をつけるとなると、何をつけたいというのが議論になるんじゃないですかね。これは私たちが相談させていただいて、扱いを考えたいと思います。

その他、1のところではいかがでしょうか。

では、これまでの経緯ですので、2の提言のところに移りたいと思います。

第6期推進会議では、若者の参加拡大を念頭に置きつつも、より広範な市民参加を促すべく、地域課題等を議論するワークショップ実施とフィードバックを提言する。これにより、今後の市政における市民参加の多様な手法の確立を図る一助にするとともに、ワークショップへの参加が今後の市民参加の一層の推進につながることを期待するものである。ワークショップは、性別や年齢、職業等にかかわらず多くの市民が参加でき、対等な立場で議論が可能となる市民参加の一手法である。また、いわゆる討論会やディベートとは異なり、多様な人々が自由に参加し、共通のテーマについて多角的に議論をすることを通じて、互いに学び合い、アイデアを創発する仕組みでもある。このため、一つの解決策への合意をとりつけるよりも、多様な意見を出し合い、そのメリットやデメリットを互いに理解するような議論の場となることが大切である。したがって、市民参加のみならず、小金井市職員（以下「市職員」という。）や関連団体等からの積極的な参加も重要である。このため、第6期推進会議におけるこれまでの議論を踏まえ、ワークショップを開催する場合、市は以下の事項に配慮すべきである。という前文です。いかがでしょうか。「関連団体等からの」というのは、ぴんときますか。何が当てはまるんでしょうか。社会福祉協議会とか、外郭団体とかなんですかね。常識的に言えば、そういうことですね。

◎一山委員 委員長、よろしいですか。関連団体の関連を各種というふうに変えることはまずいんでしょうか。関連だと、何に関連するんだらうというふうに思ってしまうので、各種団体というのは、またよろしくなければ……。

◎西尾委員長 そうなんですよね。文脈として、市民と同時に市の職員も入ってほしいという気持ちがあるわけですよね。市民ではないかもしれませんが、その方々。行政市民という言葉もありますけれども。例えば町会とか青年会議所、こういうものも入ってきますかね。どういうコンセプトが、何をイメージするかですよ。

◎一山委員 とてもいい文章で、ずっと読んでいて、ページをめくって、その関連団体等というところに、関連ってどこにと思うものですから、それで各種団体ではわかりづらいのかなと。その前にすぐ「小金井市職員」と書いてございますので、小金井市職員や関連団体という、何か市の関連というものも、誤解されないかなと思まして。

◎西尾委員長 私、そう解釈したんですよね。市の関連というふうに。これはもっと広く……。

◎一山委員 青年会議所とか、あとはNPOの代表とか、そういう方々も含めるのかなと、私は勝手に思ったんですけども。

◎西尾委員長 各種団体のほうが、多分広い概念でしょうね。その場合、市民ということの定義がどうなっていますかね。これはそこに住んでいない、しかし、小金井のNPOとか、そういう人たちも……。

◎一山委員 一番上に「市民参加のみならず」というふうに広く手を広げておられるので、それで小金井市職員って、委員長がおっしゃったように、小金井市民でない方もいらっしゃるの

であれば、広い意味での団体という言葉で、どういう言葉が適切かはわかりませんが、各種団体であまりよろしくなければ、行政用語で、いろんな団体をあらわすところが……。

◎西尾委員長 市民の定義ってありましたかね。

◎事務局 条例上は、市民の定義はございません。少し補足をさせていただきます。条例を作ったときに、市民というのは小金井市民に限定をしてはどうかというようなご議論もあったところなんですけど、NPO法人に参加されている方とかもちろんいらっしゃいますので、その方々は市民かどうか、それはわからない。例えば、府中市の方がNPOに参加して小金井で活動されている方もいっぱいいらっしゃいますので、条例を作る段階において、あえて市民というところに定義はしなかったとしてございます。

◎西尾委員長 在勤、在学、これは市民を含めているところが多いと思うんですね、基本条例の中で。主に在勤ですかね。これを含めることに特に問題ないですかね。外郭団体は幾つぐらいありますか。財団とか。

◎事務局 外郭団体の方、定義が広うございますので、数はちょっと……。

◎西尾委員長 でも、市民ではない、市のOBの方もいらっしゃるわけですよ。

今のご意見でいうと、NPOとか、そういう言い方をすると、ちょっといろいろなものが入ってくるイメージがありますよね。

◎一山委員 具体的に言わないで、各種団体という形に変えるのが可能かどうかというのを伺いたいわけです。

◎西尾委員長 広く、各種というふうにして、いろんなものを含めるというふうにしてみたいと思います。特にこれについてはよろしいでしょうか。関連を各種ですね。企業とか、団体ですからね。在勤ということで、広くやるということで、「各種団体等」からというふうにしたいと思います。

そのほか、いかがでしょうか。創発はわかりますかね。ちょっと専門的な言葉です。2つ目のパラグラフ。イメージができるから、よろしいですかね。これは何の用語ですかね。

◎渡邊副委員長 創発、私が入れたんですが、もともとは生物学の要素、イメージの翻訳なので。生物が突然変異しながら新しく変わっていくように、新しいクリエイティブなアイデアを、いろんな議論をしながら、相互作用の中で新しいものが生まれていくみたいなイメージで、最近、創発というのがよく使われますので、それをちょっと入れたというのが意図でございます。

◎西尾委員長 私も使うことがあるんですが、生物学なんですね。生まれてくる。

特にないようでしたら、もうちょっとだけ進みたいと思います。(1)ワークショップの運営について。運営の配慮すべき事項です。

ア、ワークショップの効率的な運営を図るためには、その全体の規模と同時に話し合う人数も重要な要素であり、議論が盛り上がる人数とすべきである。このため、1グループは5～7名程度にし、会場の大きさにも配慮することが望ましい。また、参加人数が多いことのみをも

って成功したとは考えず、議論の質に目を向けるべきである。

イ、ワークショップのテーマ設定には、市政における具体的な計画や事業、又は地域課題等を議論するなど多様な内容が想定される。テーマ設定に当たっては、わかりやすく具体的なテーマを設定する必要がある。抽象的あるいは専門的すぎるテーマでは、多様な市民参加を促すことができず、意見の集約が適切に行えないことに留意すべきである。

ウ、ワークショップの議論に際しては、関連するデータ・資料を用意し、必要に応じてレクチャーを行うなど、最低限の共通理解を得た上で議論を進める必要がある。これらの点を考慮した上で時間設定を行うことが望ましい。

エ、会議室での議論だけでなく、まち歩きや地図作成など体を使う要素をワークショップに取り入れることで、より広い層の参加を促すことが望ましい。

オ、魅力的なワークショップを開催するには、これまでの関心を持たなかった市民参加を促すための手法として、参加者に一定の特典などでインセンティブを与える工夫も考えられる。この点については、参加を促す市民層や経費等も視野に入れながら有益な方法を検討すべきと考える。というワークショップ運営についての配慮すべき事項です。いかがでしょうか。

◎一山委員 アのところ「ワークショップの効率的な運営を図るためには」と書いてあって、最後の文章は「議論が盛り上がる」と書いてあるんですけど、効率的な運営というよりは、ワークショップに当たっては、その全体の規模や以下のことが重要な要素でありというふうになさるのはいかがでしょうか。

◎西尾委員長 効率的あるいは効果的とか、少し違うだろうと思います。

◎一山委員 最初は良質なワークショップというふうに思った、じゃ、良質じゃないのと言われると困るので、だったらごく単純に、ワークショップの運営に当たっては、と。効率的な運営となると、テキパキ進めるようなイメージを、私のような人間は思ってしまうので。

◎西尾委員長 ワークショップの運営に当たっては……。

◎一山委員 あとの文章は、そのまま生かして。もう1点ございまして、よろしいでしょうか。

◎西尾委員長 はい、どうぞ。

◎一山委員 ウのところ、「必要に応じてレクチャーを」というのを、必要に応じてミニ講義を交えるなどとか、レクチャーというよりはミニ講義を行う、何でもいいですが、交えるとかいうのはいかがでしょうか。

◎西尾委員長 ありがとうございます。では、アのところからいきたいと思いますが、ワークショップの運営に当たっては、その全体の規模と同時に話し合う人数も重要な要素であり、議論が盛り上がる人数とすべきである。いいんではないかと思いますが、何かそこら辺。目指すものは、議論が盛り上がるということに焦点を当てる。効果的でもあり、効率的でもあり、そういうことに配慮するということで、ここはワークショップの運営に当たってはとしたいと思います。

「5～7」としたんですが、実際にワークショップってどんなものですか。このごろよくあ

るんですけれど、8でもいいですかね。8は多い？

◎渡邊副委員長 私のイメージでは、8は多いです。

◎西尾委員長 8は多いね。そこにコンサルの方がいるとか、入ったりすると、確かに4人ぐらいが良いというのがありますよね。しかし、よくテーブルを重ねると、最大8ぐらい座れるという感じですから、7ぐらいにしておくのがいいかなという。これは、このまま5から7ぐらいと。こういうところを細部に言われると、我々、考え方が出ているのではないかなと思いますね。

ウのところ、一山委員の言われた、必要に応じてミニ講義を交えるなどですね。いいと思います。レクチャーって、ちょっと重いですかね。

◎一山委員 ちょっと壁を作るというか……。

◎西尾委員長 何か偉そうですかね。

◎一山委員 その前に対等という言葉があったので、それでレクチャーという、上からの感じがしたので、ミニ講義を行うではなくて交えるにしたらどうかと。

◎西尾委員長 では、そのようにしたいと思います。「必要に応じてミニ講義を交えるなど、最低限の共通理解を得た上で」ですね。

そのほか、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

◎大久保委員 ウのところに、関連するデータ・資料を用意し、必要に応じてミニ講義を行うなどのところに、できれば事前配信、事前公開みたいな。タイトルだけだと、どういったことをやるのかわからないので、そこに資料があれば、興味のある人は引かれるのかなと思って。

◎西尾委員長 言葉としては、資料を事前に用意しですか、それとも、前もってですかね。

◎大久保委員 必要に応じてミニ講義やデータの事前配信などということですね。

◎西尾委員長 必要に応じてね。並び方としては、データ・資料を用意し、必要に応じて事前配信」ですか。

◎事務局 おっしゃることはよくわかる部分でございます。ただ、市といたしまして、まだワークショップをやるかどうか、1例しかないという実態もございますので、事前にといいところは、どのような波及効果を及ぼすのか、ちょっと想像できない部分がございます、ややハードルが高いかなと思います。

以上です。

◎西尾委員長 市に同情的に言うと、いろんなイベントというのは、その前の晩とかに必死で準備をやっていることが多いんですよ。やっそこさという感じでやるのが割と多いかなと思うんですけどね。アナウンスメントのときに、こういうふうなデータも用意する予定だとかってあると、目を引くというのはあるだろうと思いますね。当日は地図、その他のデータを用意しますというぐらいでも、また違う効果があるんじゃないかという気がします。

◎事務局 どこまでご用意できるかという部分にもよるのかなと思います。精緻なものは本当にぎりぎりまでやっていることもありますし、一定程度ご用意できるものも、あるとは思いま

す。

◎大久保委員 広報の中に、全部、詳細というよりは、こういうことをやるという内容を少し。

◎西尾委員長 広報ということで、そうですね。そこでもまた議論を。

◎一山委員 委員長、よろしいですか。せっかくの公募委員の提案ですので、関連するデータ・資料を可能であれば事前に用意しというのはどうでしょうか。可能であればという言い方ができるので。これは提言をしているわけですから、可能であればという。全部、事前だと、オールオアナッシングではなくて、可能であれば事前に。大半、可能でないという。せっかくいいご提案なので、ここに何か形と入れられたらなと思いました。

◎西尾委員長 ワークショップのところでそれを吸収できれば。ここでの趣旨というのは、何も材料ないところでワークショップの議論はできない。やっぱり一定の情報に基づいてということなので、改めてディスカッションしたいと思います。

◎渡邊副委員長 ちょっとよろしいでしょうか。

◎西尾委員長 はい。

◎渡邊副委員長 先ほどの大久保委員の意図を少しだけ確認させていただきたいのですが、事前にデータがあったほうが議論が盛り上がるという、ワークショップにかかわる話であるのか、事前にデータがあったほうが、それを見た、関心と呼ぶ人が多くなって参加者が増えるということにつながるほうであるのか、どういった形なのか。双方というのも、もちろんあると思うんですが、いかがでしょうか。

◎大久保委員 その中のバランスでいうと、タイトルだけだと、本当に中身がわからないので、参加する1つのきっかけには、興味を引くきっかけですね。それによって参加者が増えるんじゃないかという意図が入っております。

◎中村委員 そうしますと、むしろ広報のところに、そのことを書いたほうがいいのかもわからない。

◎西尾委員長 予習してくる人は、そんな多くないかと……。行ってみようかといって、いろいろこれだけあるのかって、来ているかもしれないし。

その他、この1のところはどうでしょうか。どうぞ。

◎三輪委員 アからオに当てはまるのかどうかわからないんですけど、アに近いかなと思って。いつの議論かわからないんですけど、ファシリテーターの話が出たかと思っていて、必ずしもコンサルタントの業者さんがいいというわけではないという。そういったことを盛り込んだらどうかと思いました。

◎西尾委員長 これは、アのところに関連してですか。

◎三輪委員 そうなるのですかね。

◎西尾委員長 それ、割と重要なポイントではあるんですが、あまり書いてないですよ、これについては。ご意見はどういう感じですか。もう手づくりで。はい、どうぞ。

◎五島委員 たまにあるんですけど、集めた人で手当てをして、その人、ここに座っている人、

進行やっってくださいみたいなやり方で投げってしまうので。そうすると、声の大きい人の、ここばかりだけずっとしゃべっていることがあって、そういう意味では、進行役はつけるけれども、議論の質を担保することが大事ではないかなと思いました。

◎西尾委員長 これは書いてないんですね。これは議論しましたよね。

◎五島委員 議論しましたよね。なぜ出てこないのだろう。

◎西尾委員長 ファシリテーターの役割は重要ですよ。

◎三輪委員 必ずしもコンサルの人というわけではなくて、市職員の方に入ってもらおうとかでもいいような話があったような気がしたんです。

◎西尾委員長 入れるとすると、ちょっとワンセンテンス、入れるという感じですかね。

◎五島委員 そうですね。3行目の「また」の前に。

◎西尾委員長 大きさにも配慮することが望ましい。議論を効果的に進めるためとか、効率的に進めるためにファシリテーターですかね。

◎五島委員 ファシリテーターを輩出するなど。

◎西尾委員長 また、ファシリテーターを輩出するなど、効果的な運営を心がけることが望ましい。ちょっと、望ましいが重なるんですけど。

◎一山委員 委員長、よろしいでしょうか。

◎西尾委員長 はい。

◎一山委員 一山です。語句を短くして、一番最後の「議論の質に目を向けるべきである」を途中に入れて、議論の質やファシリテーターの役割に目を向けるべきである、一番最後の文章を。議論の質やファシリテーターの役割、あるいは重要性に目を向けるべきである、どちらの言葉がいいのかわかりませんが、せっかくなまくまとまっている文章ですので、最後のところで、議論の質やファシリテーターの重要性に目を向けるべきである、そういうことにすれば短くて済む。

◎西尾委員長 新しいセンテンスを加えずに、最後の「人数が多いことのみをもって成功したとは考えず」……。

◎一山委員 議論の質やファシリテーターの重要性に目を向けるべきである。

◎西尾委員長 目を向けるのは、量に対して質ですから、ファシリテーターの適切な配置などによる議論の資質向上に目を向けるべきである。こうしますかね。

◎渡邊副委員長 すみません。最後のところは評価にかかわることなんで、短く考えたんですが、1行目の「議論が盛り上がる人数とし」というところに「、」をつけて、ファシリテーターを輩出すべきであるとしてしまったらいかがでしょうか。ファシリテーターの前にもし三輪さんの意見を入れるとするならば、可能であれば市職員が担うファシリテーターを輩出すべきであるという形になるのかなと思います。

◎西尾委員長 すっきりするのはそれかなと思いますので、「議論が盛り上がる人数とし、ファシリテーターを輩出すべきである」と。

◎渡邊副委員長 今までのところでは、ファシリテーターをできれば市職員が担って、学習効果を持って行ってほしいという部分が落ちてしまうので、可能であれば市職員が担うという表現を、どこに入れるか問題というのがあります。ただ、その他のところに、これは一番最後の議論なんですが、「市職員等への学習効果」という部分があるので、このあたりに少し肉付けするというものもあるのかもしれないなとは思っています。

◎西尾委員長 ファシリテーターがないのは、ここではなかった部分があるので、そうしましょうかね。ワークショップの運営に当たっては、その全体の規模と同時に話し合う人数も重要な要素であり、議論が盛り上がる人数とし、ファシリテーターを配置すべきであるということで、三輪さんのご意見を入れたい。よろしいですかね。

そのほか、いかがでしょうか。重要な論点でしたね。ファシリテーターという言葉が出てないですね。ちょっと中間地点を過ぎちゃったんですけど、一息入れましょうか。

では、ここで約5分間の休憩をとって、残りを考えたいと思います。できるだけ9時には終わりたいと思います。休憩します。

(休 憩)

◎西尾委員長 それでは、後半戦を始めたいと思います。

1のところまでは確認したんですが、今ご指摘いただいたのが、地域課題等というのを、2の提言の2行目のところの「等」はとっているんですが、次のページの(1)のイの1行目は「等」をとっていないので、どっちかに統一する必要があるんですが、1つとったのは私なんです。「等」を入れると、地域課題以外テーマということも入るという形です。どうでしょうか。地域問題よりはちょっと軽いような感じがしますよね、地域課題。どうでしょうか。

◎山下委員 今、問題と課題というところで、「等」についてだと思うんですが、私としてみれば、地域課題等という形でぼやかしたほうがいいと思います。というのも、あくまでも市民参加を促すためにやるものですから、それであれば、門戸を広げるという意味で、地域課題等という一番やわらかい表現がいいのではないかと思います。

◎西尾委員長 広くとるとのことね。よろしいですかね。では、前のページの「等」を生かさせていただければと思います。2の提言の2行目です。やわらかいと言いましたけど、私から言うと、かたくなるというイメージがあるんで、「等」は。それだけのことです。内容的には広くとるとか、ビジョンを語るとかというふうなこともあると思いますから。「等」を残し、事業等はとったんですが、これはいいですか。計画や事業で包括的になると思います。

◎山下委員 すみません、もう1点いいですか。

◎西尾委員長 はい。

◎山下委員 あとエのところなんですけれども、2つ目の文章のところで、「まち歩きや地図作成など体を使う要素を」というところが、ちょっと私の中でしっくりこなくて。これもまち歩きなどの体験型要素をとというようなことで、あくまでも会議室の中だけにとらわれない体験型というか。最近のはやりだと思ってしまうんですけども、物から事の消費みたいなことが言われるの

で、そういった事の要素を入れるという意味では、体験型という言葉でくくっていいのではないかなと思います。

◎西尾委員長 ありがとうございます。では、体験型というふうにしたいと思います。体験型の要素ですね。

◎山下委員 はい。

◎西尾委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、(2)に移りたいと思います。ワークショップに係る広報について。

ア、ワークショップに係る広報については、市報やホームページ、市民団体を通じて、広く市民参加を呼びかける。同時に、設定したテーマを踏まえ、関心が高いと思われる年齢層や地域・団体へ重点的に参加を呼びかける等の手法もある。広報媒体としてはポスターやチラシ、郵便、ホームページ、SNS等をテーマごとに使い分けながら活用することが肝要である。

イ、広報戦略においては、市内や近隣の学校、関連がある教員のゼミ等に呼びかけるなど、具体的な関心を持つ若者に届きやすい広報を積極的に行うことが望ましい。

ウ、市民への呼びかけに当たっては、参加のしやすさや興味があまりない人にもアピールできるよう、わかりやすさや楽しさに配慮し、多様な市民と交流できる機会などもアピールするとよい。

エ、ワークショップの資料は、開催後一定期間は入手可能な状態とする。

そこまでご意見いただければと思います。「等」がここら辺もあったり、なかったりですけど。どうぞ。

◎山下委員 先ほどのつながりで、エのところの「ワークショップの資料は」の後に、可能な限り事前に公開し、のような言葉で、必ず全て出すというよりは、可能な範囲で資料を公開して、また関心を引きつけるという意味合いを持たせたほうがいいのではないかと思います。

◎西尾委員長 ワークショップの資料は可能な限りですかね、可能であればですかね。ちょっと微妙なところですね。事前に公開し、開催後の一定期間は入手可能な状態とする。文言について、事務局、ご意見はありますか。可能な限りと可能であれば、どちらがいいですか。雰囲気が違うんですけどね。

◎事務局 大分違うのではないのでしょうか。

◎西尾委員長 どうでしょうか。可能でなければいいということで、可能な限り、どうでしょうかね。可能であれば、ですよね。全体のことを考えると。私の判断になりますが、可能であれば事前に公開し。開催後も一定期間は入手可能な状態とする、これはこれで問題ないですかね。

◎事務局 はい。これは問題ございません。

◎西尾委員長 ネット上ということだろうと思いますけども。

◎渡邊副委員長 今のところ、1点だけご提案なのですが、「ワークショップの資料は」の次に、関連するものも含めてという一言を入れたらどうかな、と思うんですね。というのは、お

そらく当日に使うパワーポイントはなかなかできていないことが多い。それが現実だと思いません。ただ、例えば公共施設等管理計画であれば、公共施設の推移のグラフとかは事前の会議でたくさん使っていて、既にある。本当はそのページにいけば資料が本当は置いてあるんですね。ただ、普通の人にはなかなかそこまで追いかけていかないということなので、それを関連する資料として、公共施設等のものはこういったものをご覧くださいみたいな形で載せておくといったような形で、当日に使う資料を用意することは難しくても、関連する資料を載せておくことは可能なかなという意味を含めて、ワークショップの資料は関連するものも含めて可能であれば事前に公開し、開催後も一定期間は入手可能な状態にするというふうにすると、特に図面等に関してはやりやすいのかなと思います。

◎西尾委員長 というご提案で、ワークショップの資料は、関連するものも含め、可能であれば事前に公開し、開催後も一定期間は入手可能な状態にする。こういうご提案、いかがでしょうか。いいですか。

◎中村委員 いいですか。

◎西尾委員長 はい。

◎中村委員 今のであれば、一番最初、大久保委員から言われたように、可能な限りということで、包括と同じことかなと思っていて。今のは、関連するものは出せるけど、当日のものはだめみたいな、限定して説明をしている文章になっていると思われるんですよ。ですから、可能な限りとって、可能じゃないのがあるというのは、可能な限りにはよくわかる言葉なので、可能じゃないものもあるんだろうなというふうにとれるから、可能な限り出すというふうにしても、事務局がよければいいんじゃないかなと。

◎渡邊副委員長 関連するものも含めを入れれば、可能な限りにして、すぐ出せるものもある。

◎中村委員 当然、おっしゃるとおりで、当日用意するのは、汗かいて、すごいことになっているのが私も理解をしているんですけども、大久保委員が言われている、よりいろんな人を集めるという趣旨でいけば、可能な限り事前にお知らせできるものというのは、気持ちとして用意をしていくというのを示すのは、事務局さえよければいいんじゃないかなというふうに思うんですけど、他の部局から怒られちゃうので。

◎西尾委員長 市職員の委員もいらっしゃるし、委員会の提言ですから、諮問的なものですかいいですかね。どうでしょうかね。ワークショップの資料は、関連するものに可能な限り公開してですかね。

◎渡邊副委員長 事前に。

◎西尾委員長 事前に公開し、開催後の一定期間は入手可能な状態とする、その辺にしたいと思います。

その他、いかがでしょうか。

◎山下委員 これも事務局側になると思うんです。質問で、小金井市で、今、私が思いつくSNSってツイッターしかないように思うのは、気のせいでしょうかという質問です。SNS等

と書いてあると、フェイスブックとかインスタグラムとかミクシーとかいろいろある中で、私
が知る限りでは、ツイッターぐらいかなと思うんですが、今、市ではどうなっているんですか。

◎西尾委員長 どうでしょうか。

◎事務局 ご指摘のとおりでございます。ツイッターについては、各課まではいかないです
が、アカウントを持っている課が複数あるというところではあります。全部ではありません。という
ところだけだと思います。フェイスブックについては、対応していません。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。しかし、ツイッターと書くのであればですね。等が
いないということですか。

◎山下委員 あと、今小金井市で、私も登録しているんですが、メルマガというんですかね、
防災関係に特化しているの、それだと皆さん、結構今登録しているの、情報発信としては
いいんですが、防災関係というんですかね。電子メールですね。なので、今、市が強いという
ものを、ここに具体的な手法として明記すべきかな、というのが意見なんです、何が今あっ
て、何が無いのかが今一つ定かではないので、私が思いつくのはメールマガジンの加筆をどう
するかみたいな。

◎西尾委員長 入れようとする、何でしょうね。メルマガ。

◎山下委員 そうすると、この手法の部分がやたらと多くなってしまいうので、そこのあたり
がくだいなというのがあるので、難しいところなんです。

◎西尾委員長 そもそもSNSの範囲って何なんですかね。

◎山下委員 すみません。自分で言っておきながら。山下です。ポスターやチラシ、郵便、イ
ンターネット等みたいな形で、拡充的な言い方です。

◎西尾委員長 ホームページをインターネットにする。

◎山下委員 そうですね。SNSもインターネット。

◎西尾委員長 しかし、SNSは議論しましたから。学生とやると必ず出てきますね、この言
葉が、SNSという言い方で。ツイッター、フェイスブックというのが、インターネットでは
伝わらない、何か新しい媒体なんだろうかな。

◎三輪委員 私の気持ちとしては、ラインが普及したことを考えると、クチコミも入れなくな
っちゃと思うんですけど。

◎西尾委員長 何です？

◎三輪委員 クチコミ。

◎西尾委員長 クチコミね。

◎三輪委員 女性が少ないとかいった部分、本当はそうなんだろうなと。

◎西尾委員長 使い分けながらクチコミも含めとやるということですかね。使い分けながら、
クチコミも含め活用することが肝要である。変ですか。いいですかね。広報媒体で、広報です
よね。

◎一山委員 委員長、よろしいですか。

◎西尾委員長 はい。

◎中村委員 原委員もおっしゃっていましたし、私自身もかなり、クチコミで、高校生にいろいろチョコレートの作り方とか、おっしゃっていたので、公民館を活用した、そういう広報媒体の1つではないかと思います。

◎西尾委員長 メディアという概念を広く考えれば、クチコミも1つのメディアですよ。

◎中村委員 ご本人がきょうご欠席なので、ぜひ斟酌していただきたいんですけども。斟酌、その他の部分。

◎三輪委員 入れることの意味としては、クチコミと言ってしまうと、特定の人で、特定の集団だけというか、そういうところに偏ってしまうというのがあるかと思うんですね。広報媒体と同列に並べると。それでも、例えば原委員が言っているようなコミュニティがどういったコミュニティかわからないんですけども、興味のある人であったり、女性、そういった人に参加してもらおうという意味では、ありじゃないかなと思います。

◎渡邊副委員長 全体の議論に全く異論はなく、純粋に、主語がどこになるのかなというのがわからなかったという点で唯一悩んでいたんですが、「広報媒体としては」という、この1行の主語は、完全に市長ないしは市がやってくださいという話なんですけど、クチコミというのは、必ずしも市が行うというよりは、市民に期待するものなので、「肝要である」の次に、もしもそれを入れるとすれば、市民間のクチコミも、市民間のクチコミの誘導も行うべきであるとか、あるいはそういったものも促すことも考えられるといったような形で、クチコミって、やってくださいって言っても誰もやらないものです。当たり前ですよ。思わずクチコミをしたくなるというような努力を市がどうとれるかというのが大事なので。もし加えるなら、市民間でのクチコミなどを行うような仕掛けとか、誘発するようなことも考えたいぐらいの感じなんじゃないかな。いい手法があるとも限らないので。あまりやりすぎると、電通みたいになってしまいますから。そこは、あくまでちゃんとした市としての取組として。ただ、市民間とのクチコミは意識していますということもPRする形がよいのかなと、ちょっと思ったので、言葉に。

◎西尾委員長 こちらの問題もあるので、私たち、それを受け取って、使い分けながら活用し、クチコミを促すことが望ましいとか、クチコミによる拡大を促すことが望ましいとか、そういう言い方で、主語は行政ということになりますから、クチコミという言葉は何とか入れたいと思います。

◎事務局 事務局とすると、クチコミというと、特定の方に行政がコンタクトする形になりますので。例えばあるAさんにはコンタクトはきたけども、Bさんにはコンタクトできなかった。こうなると不公平になるので、そこは、事務局としては、有益だと認識してぐらいのお話であればわかるんですけども、特定の方にクチコミをお願いしますということを行政に求められても、それはちょっと難しいと考えます。

◎渡邊副委員長 議論をしても終わらないので一言だけ言いますと、クチコミって促そう

と思ってもなかなか促せないと思うんですね。でも、おもしろいポスターとかあったら、こんなのがありますよみたいな形で、なので、その促しのイメージは変えることも可能なのかなと思います。事務局がおっしゃることはよくわかります。言いたいことはわかりました。

◎西尾委員長 クチコミをお願いするというよりも、クチコミが起こりやすいような工夫をとるというふうな趣旨ですよね。どう書くか、ちょっとでも……。それは引き受けまして、うなりながら考えたいと思います。

そのほか、どうでしょうか。

◎三輪委員 先ほどの事務局の方のお話ですと、伊の「関連がある教員のゼミ等」は大丈夫なんでしょうか。

◎西尾委員長 これはどういう主体がやっているものになりますかね。

◎事務局 事務局でございます。ここの部分、「関連がある教員のゼミ等に呼びかける」というところでございますけれども、主語はどこにあるかの部分もありますが、近隣の学校ということになりますと、市内の中学校、高校があるのかなと。大学もございまして、市のほうと連携している大学もございまして、そういうところに呼びかけるということは、行政としてできるかなと思います。

◎西尾委員長 公立だけで私立にはやらないとか、それは程度問題ですけどね。情報の流れというのは、日常的にあるところはより伝わりやすいということはあるかと思うんです。

◎中村委員 よろしいですか。今のは、結局、アのほうのセンテンス2行目で、「関心が高いと思われる年齢層や地域・団体へ重点的に参加を呼びかける」という、この呼びかけることで、今言われたように、クチコミがそこにつながっていくという、その効果につながっていくみたいな感じになるじゃないですか。だから、今おっしゃられた、市がポイントやターゲットを絞って働きかけるということは、そうしたら、公民館ではできないけど、例えば大学だったらできるんじゃないかって、そういうこともニュアンスとして伝わってきたんだけど、市がターゲットとして参加を促すということはできるんだけど、今言っている、原さんがおっしゃっていたこととかを考えると、そこからさらに主体的に広がっていくところの努力で何かないかということだと思ってしまうので、そこをうまくまとめてもらえればいいのか。そういう趣旨だと思われませんか。

◎西尾委員長 そうですね。ここにちょっと加えてもいいかもしれないですね。呼びかけなど、クチコミによる市の呼びかけを促す手法があるとか、何かありそうですね。

◎中村委員 人から人へつながりをとか、そういう感じのイメージでやってもらうといいのかなと思いました。

◎西尾委員長 了解しました。検討したいと思います。広報のところは、そんなところでよろしいですか。

◎一山委員 よろしいですか。

◎西尾委員長 はい。

◎一山委員 イのところ、アの部分で、クチコミ等で非常に心配なさっていたので、それであれば、関連がある教員のゼミというのは削除されていたほうが安全ではないかなと。市内や近隣の学校に呼びかける、学校等でもいいんですけど。非常に気を使って配慮されるのであれば、関連がある教員、完全にこれは特定のところという感じがしますので、それはもう削除していただいたほうが。実際にやるのはそうかもしれないですけど。

◎西尾委員長 大学という言葉はどうでしょうか。学校というのは、どこまでですかね。

◎一山委員 学校や大学ですか。

◎中谷委員 やっていると思うんですよ。あると思うんですね。だから、お客さんを集めるじゃないけど、関心のある方を、参加を集うということになったときに、例えば高齢者の方の問題とかといえば、介護の施設とか、それからケアマネさんもいらっしゃるような施設とかというところにご案内をするというのは、多分、手法としては想定ができるのかなというふうに思いましたので。例えば大学で関連のあるゼミというのがどういうのかは、今想定はすぐに、例は挙げられないんですけども、そういうアプローチの仕方というのはあるのではないかなと思うので、まんざら、ここだけそんなに、先ほど言ったように、私、公民館のところに行けないわけではなくて、行って、そこを期待して人伝え、口伝えでニーズを掘り起こすというのがあり、手法かなと思うので、特段、何かそこだけやっちゃいけないということではないのかなとちょっと思ったので、あっても別に大丈夫かなと思ったんですけども、どうでしょうか。

◎西尾委員長 教員とすると、すごく特定される。大学のゼミ等という、関連がある大学のゼミという言葉は、ちょっと具体的なイメージを喚起するものであってもいいかなと思いますね。そういうふうに、教員を大学としたいと思います。

そのほかはどうでしょうか。だんだん時間が、こんなに白熱するとは思わなかった。1時間で終わるんじゃないかなと思っていました。

それでは、(3)のところに行きたいと思います。フィードバック(議論の成果の反映)について。

ア、ワークショップでは参加者に対し、議論の結果がどのように扱われるのかを明確に説明する必要があります。

イ、議論の成果は参加者内で共有を図るとともに、発言者等を匿名化した上で、市のホームページや報告書等で広く共有し、その上で可能な限り市の計画等に反映させることが望ましい。ただし、ここで言う「議論の成果を反映させること」とは、必ずしもそのまま採用することを意味せず、市からの回答や説明などの方法もその一形態と言えよう。

いかがでしょうか。

◎中村委員 よろしいでしょうか。

◎西尾委員長 どうぞ。

◎中村委員 ちょっと私、文章の理解力がないのかもしれないですけど、ここでいう「『議論の成果を反映させること』とは、必ずしもそのまま採用することを意味せず」、ここはわかる

んですけど、「市からの回答や説明などの方法もその一形態と言えよう」、これは具体的にどうということなのかという。

◎西尾委員長 できないことを説明するかというふうなことですかね。

◎渡邊副委員長 よろしいですか。そこは今まさに委員長がおっしゃったように、できないことはなぜできないのかを説明していただくという形になります。もちろん、パブリックコメントなんかもそうなんですけど、パブリックコメントって、大体表になって、採用するものもあるんですけど、その意見を採用しない場合にも、なぜ採用しないのかということ、意見を必ず書くんです。非常につっけんどんに、関係がありませんと書いてある場合もあるんですけど、一応そういうふうに、あくまでも自分たちが話したことが何にもならないというのは、それは一番もったいない状態です。できれば、やらないなら、なぜやらないのか、そういったことも含めて、可能であれば、市からの回答ないし説明等があるとよいのかなという意図で書いています。

◎中村委員 であれば、こうしたらどうでしょうか。採用することを意味せず、その議論の成果について市からの回答や説明などの方法もその一形態と入れたほうがいいんじゃないか。この文書では、主語が見えないですね。主語を入れるべきだと思います。

◎西尾委員長 意味せず、その議論の……。

◎中村委員 その議論の成果について、市からの回答や説明などの方法もその一形態というよりも、その後もちょっと書いたほうが僕はいいと思います。その一形態というのも……。その部分は、私は変えたほうがいいと思います。

◎西尾委員長 応答ですかね、レスポンスという形で。応答のほうが広いかなという感じがするんですけど、何か質問に対していうよりも、いろんな意見が出て、その応答や説明……。

◎中村委員 フィードバックの一形態ですか。

◎西尾委員長 フィードバックの一形態ということね。

◎中村委員 具体的にちょっと述べる必要はある。

◎西尾委員長 フィードバックとすると、議論の成果の反映は重なってはいるんですけど、意味せず、議論の成果についての市からの報告や説明などの方法もフィードバックの一形態と言えよう。

◎中村委員 それだったら意味が通ると思います。

◎西尾委員長 では、そのようにしたいと思います。ありがとうございます。

その他、いかがでしょうか。

引き続き、(4)のその他。

ア、開催日時や場所等は、多様な市民の参加を促すことができるよう配慮すること。

イ、開催に当たり、ワークショップの終了時間は厳密に守るべきであるが、ワークショップ終了後も会場を確保し、終了後に市職員等との交流を積極的に行えるよう配慮することが望ましい。

ウ、ワークショップの評価は参加者数等の量的な側面だけでなく、議論の内容や満足度、参加者や市職員等への学習効果などの質的な部分、更には今後の市政への参加拡大につながっていくなど、市民参加のきっかけとなっているか否か、多面的に評価する必要がある。というところですが、ここはどうでしょうか。

◎大久保委員 アのところの「開催日時や場所、」の後に開催回数というのも入れたほうがいいのではないかと思います。というのも、夜だけ一回開催よりは、昼と夜に2回開催してみるなど必要かなと思います。

◎西尾委員長 場所、開催回数、同じものという意味がありますからね。開催日時や場所、開催回数等ですかね。

◎大久保委員 はい。

◎西尾委員長 では、それを入れたいと思います。

◎一山委員 具体的に、今、どういう文面になりますか。

◎西尾委員長 アです。「開催日時や場所、開催回数等は」、複数やるかどうかの話になっているところがあるわけですが、ここの含みに。

◎一山委員 複数の日時と複数の場所というような感じ、バリエーションをつけるということで、1回だけじゃなしに。その辺は具体的に言ったほうがいいと思うんですけども。どういう文章か……。

◎西尾委員長 日時、場所、開催回数がそこに含まれてしまうという感じがあるかもしれないんですけどね、どうですかね。

◎大久保委員 今まで比較的単発でやることのほうが多いと思うので。特に休日の昼間にやるワークショップがほとんどだと思うので、例えば平日の夜、サラリーマンの方向けにやるというのも、1つの選択肢かなとは思うので。1度というよりは、中身によると思うんですけど、2回、3回、同じ内容でやってもいいのではないかと思います。

◎西尾委員長 いかがでしょうか。新しい要素が入るわけですね、複数やるということが。

◎中村委員 その日時もそうですし、場所も、例えば貫井北町でやって、東小でやるとか、そういうようなバリエーションですよ。それを配慮しなければならないというところを具体的に、どういう文書になるかわからないですけど、言ったほうがいいと思いますね。何だろうというのを知りたい。1回限りじゃなしに、バリエーションをつけて違う場所でやる。それをどういう文書に落とし込めばいいというところがありますけどね。

◎五島委員 文章の出だしを、多様な市民の参加を促すことができるようにして、開催日時とか場所を配慮、間に入れれば、並べられるんじゃないでしょうか。

◎西尾委員長 そういうふうに入れかえて、多様な市民の参加ができるよう開催日時や場所、回数等に配慮すること。それで扱いたいと思います。ありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。議事進行で、9時を少し過ぎたんですが、もう今日はとことんつき合っていただくということで、いかがでしょうか。もうわずかですので。

◎渡邊副委員長 先ほどの議論であったのは、ファシリテーションすることによる学習効果なんですけど、ここではそれが入るかどうかということです。つまり、ファシリテーションを市の職員に担ってほしいということが現時点ではどこにも入っていない、それを入れるかどうかという。ただ、ウは評価の話なので、そのあたりをどうするか。

◎一山委員 よろしいですか。

◎西尾委員長 はい。

◎一山委員 もし入れるとしたら、「おわりに」の最後の文章に入れられたらどうなんですか。その他のところでは入りづらいので、一番最後の、市長以下市職員には、小規模でもよいので多様なワークショップを企画し、積極的に参加されるだけでなく、可能であればファシリテーターの役割を市職員が担えるようになることを期待したい。

◎西尾委員長 最後にね。「おわりに」のところも読んで、検討したいと思います。

おわりに。第6期推進会議では、会議室での公式の会合とは別に、2016年6月18日(土)に市の主催で開かれた「公共施設に関する市民意見交換会」に各委員がオブザーバーとして傍聴し、ワークショップ形式による意見交換の場を経験した。今回の提言は、この時のワークショップへの評価が基礎になっている。計画づくりに関して「情報なければ参加なし」と言われるが、市が用意した公共施設に関するデータ・情報・地図を業者がわかりやすい形で示したため、参加した市民は具体的なイメージをもって議論できたように思われる。今回の提言で推進会議の委員がイメージしている市民参加のあり方を理解するためにも、市長以下市職員には、小規模でもよいので多様なワークショップを企画し、積極的に参加されることを期待したい。ここにファシリテーターのことを入れるということですね。企画し、積極的に参加し。

◎一山委員 積極的に参加されるだけでなく、可能であればファシリテーターの役割を市職員が担えるようになることを期待したい。

◎西尾委員長 ややセンテンスが長めではあるんですけど、すごい期待があふれているわけですから。これも可能な限りかな。

◎一山委員 可能であればもとっちゃうといいですね。積極的に参加するだけでなく、ファシリテーターの役割を市職員が担えるようになることを期待したい。そうしたら、文章がちょっとだけ短くなります。

◎西尾委員長 「市長以下市職員には」と上にありますので、繰り返さずに、企画し、積極的……。

◎一山委員 市職員を外して、積極的に参加されるだけでなく、ファシリテーターの役割を担えるようになることを期待したい。

◎西尾委員長 どうですか。されるだけではなくて、企画し、積極的に参加し、ファシリテーターの役割を担えるようになることを期待したいとしてはどうかな、と思うんですが。参加するとともに、かな。

◎一山委員 参加されるだけの方もいらっしゃってもいいし、ファシリテーターを養成すると

いうのもいいかなと。それで文言は、時間も過ぎましたので、正副委員長にお願いして。

◎西尾委員長 相当、最後は畳みかけているように、ちょっと私は感じるんですが。以上で、本日は終了します。皆さん、お疲れさまでした。

(午後9時08分閉会)